学校体育功労賞を受賞して

甲佐町立甲佐中学校長　加藤　敬之

教職生活残り１年を切るようになってから、初任での出来事や部活動で泥まみれになっていた頃の映像が、これまで以上に鮮やかに脳裏に浮かぶようになりました。そのような折に、今回の栄えある功労賞を賜ることになり、これも中体連でお世話になった先輩や同僚、後輩の先生方、保護者や地域の皆様のご指導、ご鞭撻があっての受賞だと、ただただ、感謝の気持ちでいっぱいです。心からお礼申し上げます。

中体連と出会えたのは、旧飽託郡河内中時代、飽田中の黒木先生との出会いが大きなきっかけであり、故下川会長と前川先生（当時理事長）のお言葉で、平成２年度から県副理事長という大役を仰せつかりました。当時、経験豊富な坂井先生（当時副理事長）や郡市理事長の先生方のご指導もあり、何とか３年間務めることができました。この時期の総務理事会での激論は強烈な印象として今も残っていると同時に、県中体連の結束の固さを強く感じました。平成５年度からは上益城郡理事長として県大会準備に追われました。平成４年度当時は、県大会返上論が浮上していましたが、県副理事長という立場上、それは受け入れられません。翌年、郡理事長を拝命し、「上益城にある施設で、やるだけのことをしよう。」を合い言葉に、一致団結し、結果、ジグザグ台風のいたずらはありましたが、２日間で無事終了しました。大会後、役員仲間での四国旅行は一生の思い出になりました。平成７年度からは、予想だにしない県体育保健課での勤務でした。１年目は生涯スポーツ係で、行政の難しさを痛感していましたが、対面で座っておられた天草の松尾先生の、時折聞けるゆるーい話（すみません）がどれだけ私の心を和ませたことでしょう。２年目からは学校体育係として、また中体連に関わることができるようになりました。平成１１年度から教頭、そして小学校勤務と続き、平成１９年度にやっと中学校復帰を果たしました。郡中体連会長を拝命した益城中校長時代は、県学校体育優良校を受賞することができましたが、私の力ではなく、当時、体育主任である藤野先生の頑張りに寄るところが大でした。平成２２年度御船中に転任３年目、県中体連会長という話が舞い込んできました。名誉ある話ですが、これまでの先輩方の卓越したリーダーシップそして功績等を考えると、私には務まらないという気持ちが強くありましたが、それを前向きに後押ししていただいたのは、やはり先輩の先生でした。覚悟を決め、県中体連の運営に携わるようになりましたが、これまで見えていなかった大きな課題も見えるようになり、改めて運営の難しさを感じました。途中、重要な決断を下す場面がありましたが、評議員の先生方や関係機関の皆様の建設的なご意見のお陰で何とか乗り越えることができたのかなと思っています。教職最後の１年間は、顧問という立場になり、申し訳ないという気持ちもありますが、見識、実績ともに優れた現執行部の先生方の活躍を側面から見ていますと大変頼もしく、これで良かったと今つくづく思っています。

思い出は尽きませんが、上益城郡理事長として県中体連大会第２回目の上益城大会を運営し、かつ、急な要請にもかかわらず県中体研理事長を快く引き受けて頂いた福永先生（現清和小）、私が県中体連会長を仰せつかったとき、次の郡会長をどうするかで悩んでいたら、体育専門外（英語科）ながら、「よし分かった」と引き受けてくれた大学時代の盟友酒井先生（益城中）、そして、高校時代からの先輩で、中体連だけでなく多くの教訓を頂いた、怖くて優しい千原先輩、吉村先輩、そして何より、３度も同勤でき、同志でもあり良き相棒の服部先生（甲佐中）や苦労をかけた清水県理事長など多くの方の支えがあって、中体連の役を務めることができたと思っています。改めて感謝とお礼を申し上げます。

県中体連は大きな岐路に立ち、多くの課題はありますが、以前も、厳しい状況に直面し、その都度、英知を振り絞り解決されてきました。中体連の脈々として受け継がれてきた伝統と絆、そして何より生徒のために為に何を為すかという熱い思いを、今後も持ち続けて頂き、中体連発展のために尽力されることを心からご期待申し上げ、お礼の言葉とします。